

いしかわまち 「地域の支え合い通信」

発行：社会福祉法人 石川町社会福祉協議会
石川町字渡里沢37-5
TEL 0247-26-3793
FAX 0247-57-7003
編集：生活支援コーディネーター N0.12 発行日：2024.2.1

誰もが住み慣れた地域で 最期までいきいきと 心豊かに暮らせる社会に向けて



山橋地区オレンジカフェの様子



野木沢地区「地域づくり講演会」の様子



中谷地区「つながっぺ」打ち合わせの様子



沢田地区「サロン交流会」での参加者全員での集合写真

本町でも支え合える地域づくりに向けて各地区で話し合いが始まっています。
誰もが住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らし続けられるよう、一緒に助け合いの地域づくりを考えていきましょう。

第8弾 新しいふれあい社会 これからの「助け合い」を どう進めるか。

「困る前」の取り組み・つながりが大切に
今、各地区の福祉部会では「高齢になって
も、安心して住み慣れた我が家で暮らし続け
られるため」に「地域のつながり」や「助け合
い」について話し合いが始まっています。高齢
者だけでなく、例えば病気になっても、孤立
しないで暮らし続けられるために地域のつな
がりが必要になってきます。
各地区で行っている「支え合いのできる地
域づくり」は、介護のサービスだけでは補いき
れない生活に対する不安について、身近な
人と一緒に考えることで、お互いに行き
とで助け合うことにつながるため、それぞれ
が自分のこととして考え、広げていくことが
大切だと再確認しました。
また、高齢の方からの「ゴミ出し」や「買
物」が大変になっていたりなどの相談が増えて
きました。ヘルパーさんの人手不足などもあ
り、ちょっとした手伝い・ついででの買い物な
ど、身近なところでの助け合いや見守り・声か
けが増えてくるような活動をしていきたいと
思っています。
「自分が年老いたらこういうふう暮らした
い」と自分のことを話したり「困った時はお互
い助け合おうね」と互いに話しておくなど、1人
ひとりのつながりが切れないようにしていく
ことが安心した生活を送れることにつながっ
てきます。

山橋

母畑福祉部会の今後の活動とし
ては、今もやられている声かけや
ちよっとした手伝いなどの地域の
つながりの大事なことを、地域の
皆さんと共有するために、勉強会
を開催し、助け合いの輪を広げて
いきたい。
母畑地区 永沼
8月に開催した「出張オ
レンジカフェ」には、たく
さんの方々が集ってくだ
さいました。コロナ以降、
久しぶりの友人との再会に涙する
方もいらっしやいました。ボラン
ティアで参加した福祉部会補助サ
ークル《モチモチの会》会員からも
「こんなに喜んで集える会は、ち
よくちよくやれるといいね」との
声があり、福祉部会主催で2月1
4日に「バレンタインカフェ」を開
催することにしました。
9月10日に開催した敬老会に
も、たくさんの方が参加してくだ
さり、会話を楽しみながら催し物



(1月に開かれた福祉部会の様子)

を
ご
覧
に
な
っ
て
い
ま
し
た
。
ま
た
、
ミ
ニ
バ
ス
「
ふ
れ
あ
い
広
場
」
も
4
年
ぶ
り
に
再
開
し
ま
し
た
。
毎
月
、
2
0
名
ほ
ど
の
人
た
ち
が
集
っ
て
い
ま
す
。
1
2
月
は
、
輪
投
げ
ゲ
ー
ム
を
楽
し
ん
で
い
ま
し
た
。
毎
回
、
楽
し
み
に
参
加
し
て
い
ら
っ
し
や
い
ま
す
。
サ
ロ
ン
で
も
健
康
体
操
を
実
施
。
仲
間
と
の
交
流
は
、
何
よ
り
最
高
の
健
康
寿
命
に
繋
が
る
よ
う
で
す
。
今
後
は
、
福
祉
部
会
で
「
認
知
症
サ
ポ
ー
タ
ー
養
成
講
座
」
を
地
区
民
も
募
っ
て
開
催
予
定
を
し
て
い
ま
す
。
興
味
の
あ
る
方
は
、
是
非
ご
参
加
く
だ
さ
い
。
山橋地区 湯沢

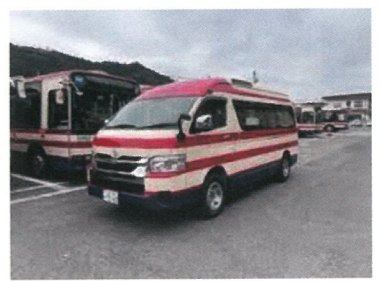
～タクシー券・温泉券の利用状況及びミニバスの利用状況～ (令和5年6月～10月迄)

◆タクシー券並びに温泉券の利用状況◆

月	タクシー券 延べ利用人数	温泉券 延べ利用人数
4月	85	71
5月	536	204
6月	466	136
7月	395	172
8月	344	90
9月	300	115
10月	266	60

◆ミニバス利用状況◆

登録者	人数
80歳未満	30
80歳～84歳	31
85歳～89歳	26
90歳以上	12



沢田

健康福祉部会では、十月二十一日・二十二日に開催された「沢田地区文化祭」の会場に於いて『健康福祉部会コーナー』を設け、傾聴訪問活動・ピンポン体操や楽しく歌う会、地域サロン・白鳥の会への支援活動や移動販売車「とくし丸」の様子などについて写真を交え紹介しました。



(今年度2回目となるサロン交流会は大いに盛り上がりました。)

また、沢田の人口・世帯数、高齢

化率など私たちを取り巻く現状についても資料を展示し、知っていただくことができました。中でも、この企画で最も反響のあったものは、体組成計や握力計を利用し体脂肪率や筋肉量を測定するコーナーでした。部会員の協力と積極的な声かけで、5歳から80代まで、約150人以上の方々に参加いただき、年代別握力チャンピオンを決定いたしました。参加した皆さんは精一杯の力を振り絞りながら必死の表情で挑戦しながらも、結果を確認する顔には素敵な笑みが見られ、盛り上がりっていました。

十月二十六日には、「話す人も聴く人も元気になる傾聴」と題し、四年ぶりに傾聴のミニ勉強会を開催しました。お話は町役場高齢福祉係の石塚さんからいただき、参加者同士が体験を通して考える時間や、傾聴のコツ、注意点、心得について再確認しました。また、傾聴は自分の心の栄養にもなるというお



(文化祭での健康福祉部会コーナーは大盛況でした。)

話しもあり、とても有意義な勉強会となりました。傾聴に興味のある方はいつでも活動に参加することができまますので、ぜひ、ご連絡ください。

そして、十一月一日には今年度2回目となる「地域サロン交流会(ポッチャ大会)」を開催しました。今回は17チームの参加。各チームとも更にレベルアップしており、真剣な顔でプレーしていました。翌日、地域の若い方から「ポッチャやりたいね」という声をいただきました。世代間交流の可能性を感じました。

健康福祉部会は、今後も地域の方々の健康づくりや楽しく交流で

きることを企画しながら、支え合いの地域づくりが広がることを願い活動していきたいと思えます。

沢田地区 水野

野木沢

11月22日、さわやか福祉財団の岡野先生を講師に迎え「みんなで考える支え合いの地域づくり」講演会を開催しました。

最期まで住み慣れた地域で暮らすためには、介護保険は万能ではなく、高齢になってからの生活していく上での不安に対して、地域のつながりをつくり、出来ることと、お互いが助け合うことが大切だと再確認しました。

また、高齢者の孤立化の問題、その支援として地域で開催する集いの場(サロン)の効果についての話も聞くことができました。

聴講後は地区毎に分かれ①「地域で生活する中での困りごと」②

母畑

第2回福祉部会を9月27日に開催しました。

今回の福祉部会では、平田村の「ちよこつと助け隊」の方を講師に招き、設立までの経過と現在の活動状況についてお話を伺いました。

「ちよこつと助け隊」の令和4年度の活動内容では、

①「見守り支援・話し相手」が654件

②「運動ボランティア」が95件

③「ゴミ出し(分別の手伝い含む)」が76件との報告がありました。

質疑応答では「隊員64名の確保はどのようにしているのか」が出され、地域づくり講演会や担い手養成講座を受講した方へ「ボランティア団体としてまとまって活動しませんか」と声かけし、高齢者の「普段の生活の困りごと」への対応では、無理をしないで「できる人が」「できる時に」「できること」をお手伝いしているのとこととした。

「①を解決するために必要なことは何か」についてグループワークをしました。福祉部会員だけでなく、多くの地区民の方に参加してもらい、「助け合い」や「支え合い」「お互いさま」の関係がますます大切になってくるのが共有できて良かったと思います。

今後は、課題解決に向けて動き出せるよう、補助サークルを立ち上げて取り組んでいくことになり、12月6日に1回目、1月9日に2回目の集りをもちました。補助サークルの名前を「よりそ



(地域づくり講演会でのグループワーク)

中谷

会」とし、月1回集まり、少しでも野木沢地区で安心して暮らせるよう、見守りや声かけ、助け合いの輪が広がるような活動を広げていきたいと思えます。ぜひ、興味のある方は、仲間に入ってください。みなさまのご参加をお待ちしています。

野木沢地区 塩田

昨年の6月29日に、

我が事として考えるつながりの大切さ「支え合いの地域づくり」講演会を開催しました。役場から介護の状況、先生の講演後はグループに分かれ、「高齢者の困りごとについて」

や「それを解決するためにはどうするか」を考えました。継続して検討していくべき内容やすぐにもお手伝いに繋がりそうなことを検討するために、福祉部会の補助サークル「つながっぺ」を立ち上げました。この補助サークルは、住み慣れた地域で最期まで暮らし

中谷地区 吉田



(「つながっぺ」ではミニバスに同行して買い物付き添い支援も行っています)